

## 第2回分科会活動報告

日 時：2013年6月14日（金）

場 所：中央大学 後樂園キャンパス

出席者：24名（内訳：正会員14名、賛助会員他：10名）

記録者：日本大学理工学部 恵藤 浩朗（第一分科会運営委員長）

テーマ：グローバルに力を活かす！（大学の国際化、グローバル人材育成推進）

### 1. 研究活動内容

#### (1) 会場校ご挨拶

中央大学 理工学部長補佐・教授 牧野氏

#### (2) ご講演

テーマ：「科学的グローバル教育モデルとしてのコンピテンシー育成」

講演者：中央大学 理工学部長補佐・教授 牧野氏

他大学に先駆けてグローバルパーソンを目指す学生達に向けて語学力を鍛える講座や実際に海外で学ぶ機会を豊富に与え、グローバルな視点を養う場をしっかりと大学として提供し、“大学の国際化”や“グローバル人材の育成”に向けた取り組みを積極的に実践されている中央大学 後樂園キャンパスに訪問し、グロー



バル人材を育成する基礎となる「科学的グローバル教育モデルとしてのコンピテンシー育成（2009年度 大学教育・学生支援推進事業 大学教育推進プログラム採択課題）」について中央大学 理工学部長補佐 教授 牧野先生にご講演いただきました。具体的には、グローバルつまり学生に如何に主体的に動いてもらうか、という取り組みを中心にお話いただきました。まずグローバル人材とはということで、要素1 英語、要素2 自ら動こう、要素3 異文化に対する理解と日本人としてのアイデンティティ、といった3つの要素を備えた人ではないかという話があり、中央大学では「Go Global」といった取り組みを実施している。その上で具体的に何が出来ればその人材なのかという解釈が割れてはいけなため、グローバル人材に求められるコンピテンシーについてPDCAの仕組みを入れ、コンピテンシーの段階別かつ詳細な定義をするとともに当該科目の期待される学生行動の抽出と望ましいコンピテンシーの水準の確認が行われています。中央大学ではこのような評価を6×5×200項目にまとめており、ルーブリックによる5段階の評価で大学卒業時には3程度、大学院なら4程度までになっていたら良いと考えられているようです。そもそも大学では学生個人が見えにくい状況であるため、こうした評価項目が学生の見える化に繋がるとのことでした。また今後、全学的なキャリア支援という観点から、グローバルコンピテンシーとしての評価を加え、グローバル人材の育成の一助としたいとのことでした。

#### (3) 施設見学

CAVE（立体視表示システム）、空中庭園ほか

#### (4) アイスブレイク

#### (5) 意見交換会

テーマ：「〇〇さんはグローバル？ー私がイメージするグローバル人材」（ワールドカフェ形式）

上述の講演内容を受けて、グローバル人材とは何だろう、誰かグローバルな人と感じる具体的な例を挙げながら、その要因を探るために「〇〇さんはグローバル？」といったテーマでワールドカフェを行いました。なかなか難しい題目で、はじめのうちは意見があまり出なかったのですが、時間が経つにつれて歴史上の人物からスポーツ選手まで数多くの方々の名前が挙がり、次第にその分析が始まりました。例えば、古いところから平清盛、杉田玄白、吉田松陰、坂本龍馬、勝海舟、そして最近の方々では本田宗一郎、ユニクロの柳井氏、スポーツ選手としては野茂、イチロー、ダルビッシュ、中田、長友など世界で活躍し、世界を視野に入れている方々の名前が出てきました。そしてそれらの人々は高い目標とぶれない軸を持っていて、日本にいても世界を意識して活躍している方はグローバル人材だという意見もありました。また世界で活躍する人については、当然のことながら語学力を含めたコミュニケーション能力は必須であろうという意見や、積極的に行動する姿勢も重要であるとのことでした。そしてグローバル人材には夢と自信、進取の気性があり、日本人としてのアイデンティティを持ちつつ、国境といった垣根を意識しない地球人として活動する人ではないかとまとめられました。



## 2. まとめ

今回も内容の濃い有意義な例会となりました。グローバル人材といった非常に難しいテーマで、どういった人がグローバルなのか、またそういった人材を育成するには大学はどうすれば良いのだろうかといった観点から、牧野先生のご講演を伺い、中央大学におけるコンピテンシーの段階別かつ詳細な定義とルーブリック評価による方法の話をお伺いして、これまで具体的ではなかったグローバル人材というものの解釈を少し具体的にイメージできるようになったのではないかと感じております。そしてワールドカフェ「〇〇さんはグローバル？」で、グローバルとは何か、ただ単に「グローバル人材を育てよう>語学力」ではないということが明確になったと思います。グローバルな人材は「世界を意識し自国のアイデンティティを持つと共に地球人である」といったところでしょうか。本当に難しいテーマでのご議論、皆様、お疲れ様でした。

以上